

説教ドリル、9/27/09

そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置いてから、送り出した。ふたりは聖霊に遣わされて、セルキヤに下り、そこから舟でキプロスに渡った。(使徒 13:3-4)



みことば: 使徒 3:1-16

テーマ: 聖霊に遣わされて No.6

このドリルでは、神の国を押し広げていくのが誰で、その器としての私たちは何であるのか、について学んでいきます。

みことばの観察:

- 1) 使徒の働きによれば、イエス様の昇天の後、2章の終わりまでにどんなことが起きていましたか。簡単にまとめて下さい。その中で、聖霊の注ぎや、一日に3千人の人が救われるという奇蹟以外に、何か奇蹟の話が載せられていますか。そのことから、この本の中で、3章の話がどんな役目を持っていると思いますか。
- 2) 1-5節の中で、まず、この足なえの人が生まれつき足なえであったことや、毎日、その門に置いてもらっていたことなどが書かれています。また、ペテロとヨハネが午後3時の祈りの時間のために宮に上っていったことも書かれています。なぜ、ルカはそのようなことを詳しく書いているのでしょうか。これらの説明があるのとないのと、この奇蹟の話の読み方はどのように変わってくるのでしょうか。
- 3) 12節と16節を比べて下さい。何がこの人を癒したのかということに関して、人々が考えていたことと、ペテロが言っていることはどのように違っていますか(それぞれ、二つの表現が使われています)。このことは、読者が、これから、神の国というものが、使徒達や他の働き人達によって宣べ伝えられていく様子を読むにあたって、どのような大切な真理を教えてください。

個人的適用

- 1) 神の働き人／器となるために、一番大切な真理をここで学んでいます。それは何でしょうか。人々が普通考えるのとはずいぶん違いますが、その真理をあなたのことばで表現してみてください。
- 2) 12節での「**自分の力とか信仰深さ**」というものは、具体的にどういったものでしょうか。そういったものによって神の業が起きると考えている人の生き方、態度はどういったものでしょうか。
- 3) 神の国は、だれがいったい押し広げていくものでしょうか。このことに関して、上の話しの中で、肉の目では見えないところ、また書いてないところを、あなたのことばで説明してみてください。つまり、この足なえの人がいやされることになったいきさつと、それがどのように用いられたのかを、霊の世界での出来事として話すようになりますか。

祈り

- 1) あなたという器が、その考え方や態度において、より良い、本当に用いられる器になるように。
- 2) あなたの属する家庭礼拝やグループを通して、神の国が押し広げられていくと信じますか。そうなら、それを告白してみてください。
- 3) 最近の新来会者、また、あなたが10月の終わりまでに、教会に導きたいと願っている人たちのために祈って下さい。名前をあげて祈ること、その報告もして下さい。